

- 1 研究テーマ 思いを豊かに伝え、主体的に学び合う子どもの育成
～身に付けたい力を明確にした国語科の授業づくり～
- 2 アドバイザー 玉川大学教師教育リサーチセンター客員教授 興水かおり 先生
- 3 実施期日 平成29年7月6日(木) 午後1時30分～午後4時40分
平成29年10月12日(木) 午前10時40分～午後4時40分
- 4 研究会場所 倉吉市立上小鴨小学校
- 5 研究会内容
【7月6日】
公開学習 午後1時30分～午後2時15分
5年国語科「書き手の意図を考えながら 新聞を読もう」(学習指導案は別紙)
みとりの視点
【言葉を手がかりにしながら、自分の考えを持つ子ども】
新聞記事の内容にどのような違いがあるのかをとらえて、書き手の意図
(メッセージ) を考えることができたか。

研究協議 午後2時30分～午後3時30分
協議の視点
・つけたい力を明確にした単元構成・授業構成となっているか。
・本時の目標を達成するために、適切な支援がなされていたか。
・各学年の取り組み状況

指導助言 午後3時30分～午後4時40分
「説明文を楽しく学ぶための指導法の工夫」
～スッキリ、ハッキリ、ワカッタと実感できる授業～

研究協議や指導助言で明らかになったこと

- 本時の学習は説明的文書であり、筆者の意図がある。メッセージ(伝えたいこと)と意図には違いがある。正確に言葉をおさえ、意図されていることを正しく読む力を育てることが大切である。そのため、言葉を正確に伝える、正確に学習させることが大切である。
- 本時の学習で何を学ばせるのかを明確にすること、それを学ばせるための発問を磨くことが指導者として大切なことである。文章の学習は、言葉にこだわって学習を進めること、主述の関係をつかむこと、接続語、文末表現などに着目して読み取ることなど、国語科ならではの学習の積み上げが大切である。やはり、教材研究が大切である。
- 学習活動で、何をねらうのか(グループ討議のねらい:何を・どのように話し合わせるのか、詳しく書く力・まとめて書く力をどのようにつけるのかなど)を明確にすることが大切である。
- 教える・教え合う場面が一番力をつけることができる。子どもたちの学力を身につけるために、主体的、対話的な学びをより仕組んでいくことが大切。
- 新学習指導要領の読み取りと解説を指導していただいた。



【10月12日】

学習公開 午前10時40分～午前11時25分

指導助言 午前11時30分～正午

初任者・講師に指導助言をいただく。

公開学習 午後1時00分～午後1時45分

4年国語科「物語”深イイ”ポスターで伝えよう」

教材名：ごんぎつね 新美南吉 作

(学習指導案は別紙)

みとりの視点

【言葉を手がかりにしながら、自分の考えを持つ子ども】

物語”深イイ”場面を、叙述を根拠にして想像を広げて考えることができたか。

研究協議 午後2時00分～午後3時00分

協議の視点

- ・つけたい力を明確にした単元構成・授業構成となっているか。
- ・本時の目標を達成するために、適切な支援がなされていたか。
- ・各学年の取り組み状況

指導助言 午後3時00分～午後4時40分

「物語文の学習における主体的・対話的・深い学び」

研究協議や指導助言で明らかになったこと

- 本時の物語の学習には叙述に即して読み味わう学習、筆者の思いを考えながら読む学習の2つの指導内容があった。2つの内容が含まれたので、子どもたちの読み深まるところが浅かった。どちらかに絞って学習を行うことが大切である。その上で、主発問、補助発問を練っておくことが、本時をよりよいものに変えていく。
- 話し合いや伝え合いは、話し合い・伝え合うことで子どもが気付く、子どもが学ぶ(考えを変える、広げる、深めるなど)ことが大切である。話し合いは対立軸があって深まる。意見の違う場面をもうけて話し合いを行わせたい。子どもの意見が偏ったら、教師が反対意見を出したい。
- 物語の学習では、物語にひたる学習、想像を広げる学習などがあるが、その作品を壊さない教師の声のトーンで読むことや話しかけることが大切である。時に、読みにひたる場面では、気をつけたい。
- 本単元の学習で、また、本時の学習でどのような力を子どもたちにつけるのか、そのためにどのような言語活動を仕組むのかを吟味することが大切である。言語活動は、あくまでもつけたい力をつけるための方法であり、目的ではない。
- 上学年では、本文に立ち返ることが大切である。本文に立ち返り、言葉や文末などの表現に着目し想像することで読みが深まる。また、どんな言葉の力をつけるのかを考えて物語を読み進めていくことも大切である。
- 主体的な学びは、子どもたちが主体的に取り組むことが大切である。やりたい、読みたい、知りたい、話したいなどの「たい」がたっぷりの学習にする事が重要である。決して「さい(～しなさい)」の多い学習にしないように。
- 対話的な学びの対話とは、「子どもと子どもの対話」「子どもと教師の対話」「子どもと教材の対話」「自分自身との対話」が考えられる。深い学びにするためには、いろいろな対話により考えを深めるとともに自分との対話(自己内対話)をする事が大切である。学習の振り返りは、その自己内対話の取り組みであるので、学習課題(めあて)と振り返りを一体として行い、深い学びにする事が大切である。

